

あなたが思う足利の魅力、発信してみませんか？

素通り禁止♡足利市民ライター

企画政策課・☎22261・FAX21384

☐cp02@city.ashikaga.lg.jp

活動内容 フェイスブックやホームページへ月に1回程度の投稿

※編集や撮影などの研修会あり。

任期 10月～翌年9月

応募資格 ①15歳以上(中学生を除く)の②SNSやブログなどの投稿ができる方で③9月15日(日)午前10時から午後4時まで生涯学習センターで開催する研修会に参加できる方

募集人数 10人程度(応募多数の場合は書類選考)

応募方法 8月22日(木)までに応募用紙に必要事項を書いて持参、Eメールまたはファクスで同課

※応募用紙は市または『素通り禁止/足利』ホームページから入手可。

▼事前説明会(任意参加)

日時 8月7日(水)／午後6時30分～7時30分、11日(日)／午後3時～4時

会場 生涯学習センター1202号室

タ1202号室



素通り禁止足利

♡先輩ライターに聞いてみた



MIKAさん

市民ライターの活動で、さまざまな足利を見ることができました！一緒に足利を盛り上げていきませんか？



なみえさん

自分なりの視点から見た足利を自分の言葉で発信することで、それまで気づけなかった新たな足利の魅力を再発見することができ、とても勉強になりました！！



—市民の皆さんの活躍をご紹介します—



山辺中生8人が女性を救出！

6月3日の夕刻、対向車を避けようとしてバランスを崩し、女性が用水路に転落。下校途中の同校生徒が「助けて」の声を聞きつけ、手分けして女性と自転車を引き上げました。

8人は学年も所属する部活動も異なり、偶然その場に居合わせたにもかかわらず、見事な連係で救助に成功。7月3日、勇気ある行動に対し、細波足利警察署長から感謝状が贈られました。

▶上段左から

柳澤陸斗さん
浜崎リュウさん
田名網俊介さん
瀬間陽太さん
大槻颯姫さん
村井朱里さん
青山諒平さん
田中カイトさん



お知らせ

運転免許を自主返納した方へ
生活路線バス回数券を交付

市民生活課・☎22186

対象 ①運転免許を自主返納した65歳以上の方で②住民基本台帳に記載され市内に居住し③市税に滞納がない方

回数券 100円券×44枚

持ち物 印鑑、『申請による運転免許の取消通知書』の写しまたは『運転経歴証明書』の写し

申込 返納から1年以内に同課

消費税増税の影響を緩和します

プレミアム付商品券

商業振興課・☎22158

対象

①令和元年度住民税(均等割)非課税の方

※住民税(均等割)課税の方と生計同一の配偶者・扶養親族、生活保護被保護者などを除く。

②平成28年4月2日から令和元年9月30日の間に生まれた子
がいる世帯の世帯主

購入限度額

①券面額5千円ごとに2万5千

円(販売額2万円)

②券面額5千円ごとに2万5千円(販売額2万円)×対象の子数の数

申請方法

①対象と思われる方へ送付している申請書を11月29日(金)までに同封の返信用封筒で郵送

②申請不要

購入引換券 申請内容の確認などを行った後、対象者へ9月下旬から送付

購入可能期間 10月1日(火)～翌年2月28日(金)

販売窓口 市内郵便局

※久野簡易郵便局を除く。

利用可能期間 10月1日(火)～翌年3月31日(火)

問い合わせ 専用コールセンター!

☎0570・071455

※受付は、平日午前8時30分から午後5時まで。

合併処理浄化槽の

設置費を補助

クリーン推進課・☎2142

補助対象 合併処理浄化槽を個人の専用住宅に設置する方

※未着工のものに限る。

補助金額

人槽区分	国庫補助対象区域 ^{※1}	市単独補助対象区域 ^{※2}
5人	332,000円 (422,000円)	110,000円
7人	414,000円 (504,000円)	138,000円
10人	548,000円 (638,000円)	182,000円

※()内は既設の単独処理浄化槽から合併処理浄化槽に設置換える場合、建て替えの場合を除く。

※消費電力が低減されているなどの要件を満たしている、市が指定した浄化槽が対象。
※予算の範囲内で交付。

申請 まずは同課にご相談を

※1国庫補助対象区域：公共下水道、地域し尿処理、農業集

落排水の計画区域を除いた区域

※2市単独補助対象区域：公共

下水道の計画区域で、その供

用が年度内に始まらない区域

★**浄化槽は維持管理が必要です**

設置した浄化槽は、機械の点

検、調整、補修や消毒剤の補給

などの保守点検、槽内にたまった汚泥を引き抜く清掃、水質などの法定検査が必要です。定期的に行ってください。
※保守点検業者などは、同課にお問い合わせください。



市長コラム No.068



和泉 聡

人生は、だましました

この10年ほど、結婚式に呼ばれあいさつを頼まれると、その最後に必ずお話することがあります。

「夫婦生活の少しだけ先輩の立場からアドバイスすると、何かにつけ、夫婦間であまり突き詰めた議論をしないこと。なんとなく相手はこう感じてい

るのだらうな、まあ、それでいいか、と良い意味で曖昧にしておくこと。それはこうだからおかしい、とか、こうだから正しいとか、論理的な議論はしないほうが何かとうまくいく。夫婦とはそういうものだと思ってい

ます。自分の経験から、これから長い旅路を共に歩む若いカップルへのはなむけの言葉にしてみました。

の方も多かったと思いますが、朝日新聞の天声人語(6月11日付)では、田辺さんが夫を見送った翌年に出した随想集『人生は、だましました』から次の一説を紹介していました。

「夫婦円満に至る究極の言葉はただ一つ、『そやな』である。夫からでも妻からでもよい。これで世の中は按配よく回る」天声人語の筆者は「言いたいことは多々あれど、あえて腹に収めておく。夫婦の知恵だらう」と説明を加えていました。

仕事を進めていく上では、データを積み重ねながら、論理的な緻密さが必要なことがもちろんあります。しかし、こと人間関係になると、夫婦はもちろん、家族でも、仕事仲間でも、きれいに論理的に整理できるなんてことにはならない。人は複雑な感情をもった動物だからです。

田辺さんが言おうとしたこと、私が言おうとしたこと、それは『思いやり』『優しさ』と言い換えていいのかもしれない。そう思ったのでした。